

第2章 益田市の食育の現状と課題

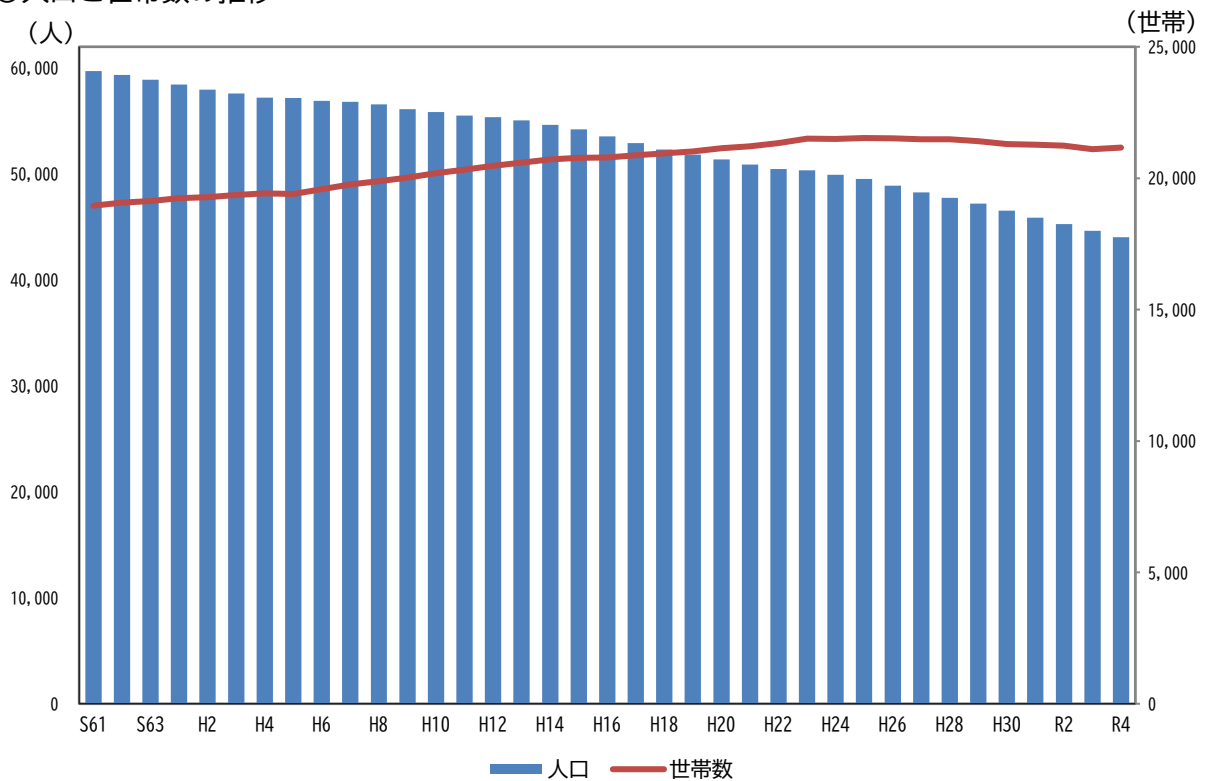


1. 益田市の人口と世帯

(1) 人口推移と世帯構成

人口と世帯数の推移を見ると、人口は減少していますが世帯数は横ばいです。世帯の家族類型では単身世帯が増加しています。

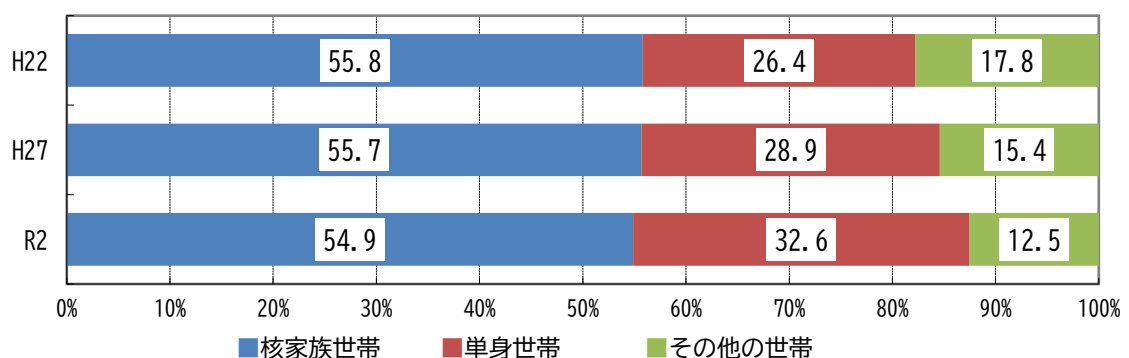
○人口と世帯数の推移



(益田市人口集計表)

(平成15年度以前は旧美都町、旧匹見町住民を含んだ数値)

○世帯の家族類型



(国勢調査(世帯の家族類型(22区分)別一般世帯数))

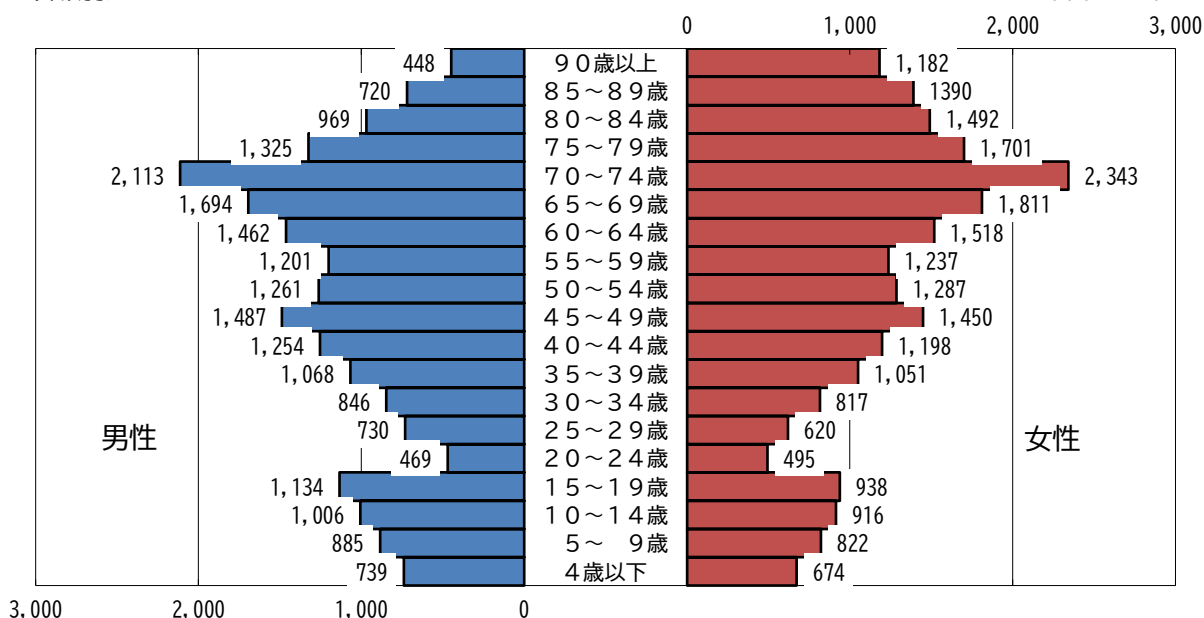
(2) 人口構成

益田市の人口構成をみると、70歳代前半のいわゆる「団塊の世代」の人口が多くなっています。また、進学や就職などで市外へ転出する人が多いため、20歳代の人口が少なくなっています。

令和4年10月1日現在の人口推計では、高齢化率は全国平均29.0%に対して益田市は38.9%であり、全国平均以上に高齢化が進んでいます。

○年齢別人口ピラミッド

(単位：人)



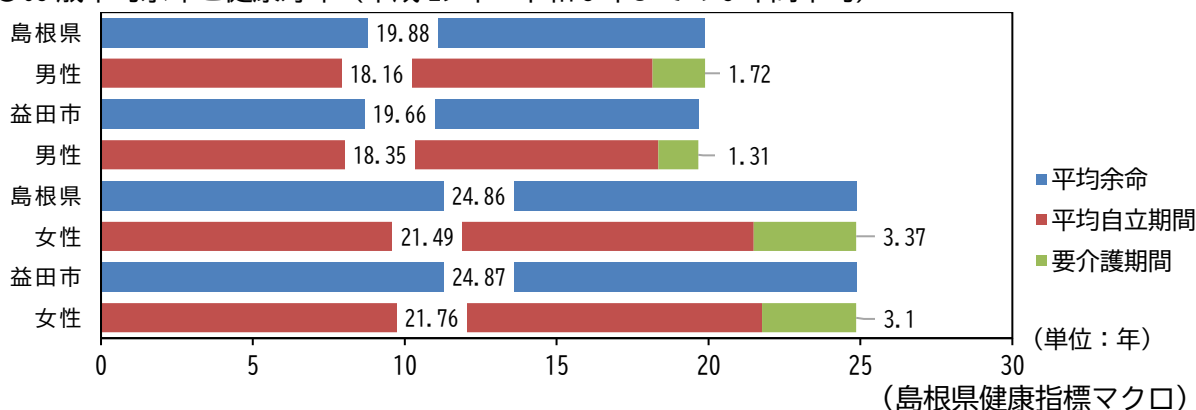
(令和4年10月1日現在)

2. 食を取り巻く環境

(1) 65歳の平均余命^{※1}と平均自立期間^{※2}について

平均自立期間を延伸するためには生活習慣病の予防を図り、高齢化に伴う機能低下を遅らせるため良好な栄養状態の維持が重要になります。益田市の65歳時点の平均自立期間は男性で18.35年、女性で21.76年です。平均余命と比較すると、男性で1.31年、女性で3.1年差があります。県と益田市に大きな差はありませんが、県よりも男女とも平均自立期間が僅かに長く、要介護期間が短いという値になっています。

○65歳平均余命と健康寿命(平成29年～令和3年までの5年間平均)



(単位：年)

(島根県健康指標マクロ)

※1 平均余命とは、ある年齢の人々がその後何年生きられるかという期待値のことです。

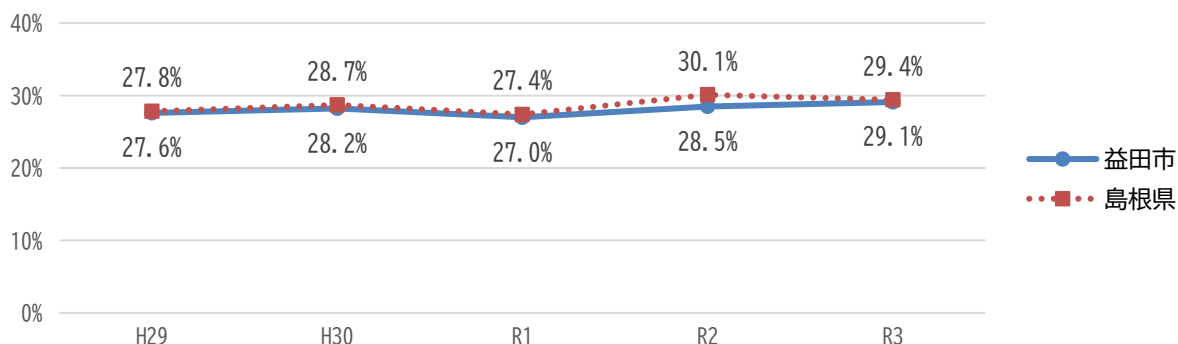
※2 平均自立期間とは、介護保険制度の要介護1までの人を「健康」と位置づけ、あと何年「健康」で自立した生活が期待できるかを示します。

(2) 生活習慣病※¹について

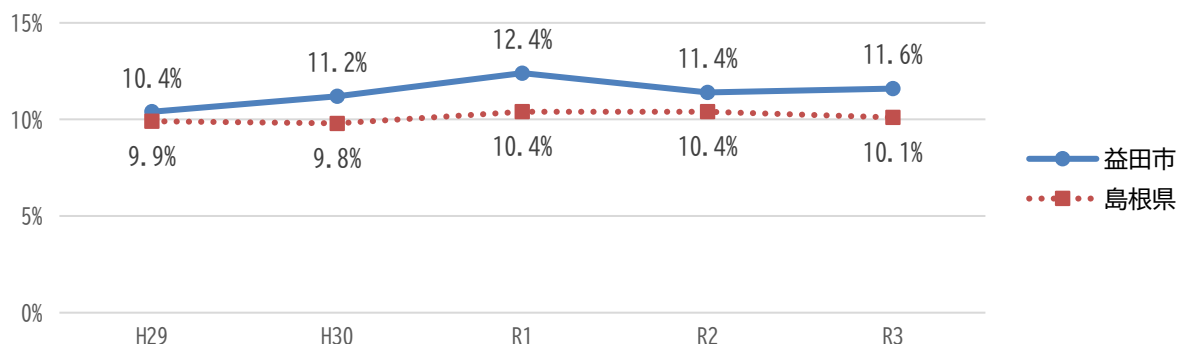
益田市国民健康保険では特定健康診査※²受診者の約30%の方が高血圧※³を示しています。中性脂肪 300mg/dl 以上の方は健康診査受診者全体の3%と少ないですが、県よりも高い割合が続いています。また糖尿病の指標の一つである HbA1c※⁴6.5%以上の方が年々増加しています。

さらに、令和3年度メタボリックシンドローム※⁵予備群、該当者は約30%となっており、年々増加しています。

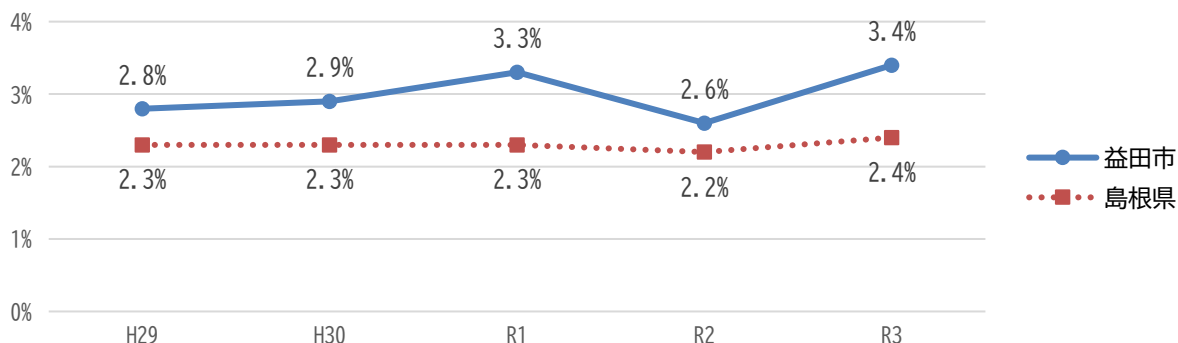
○収縮期血圧 140 mm Hg 以上または拡張期血圧 90 mm Hg 以上の割合



○HbA1c 6.5%以上の割合

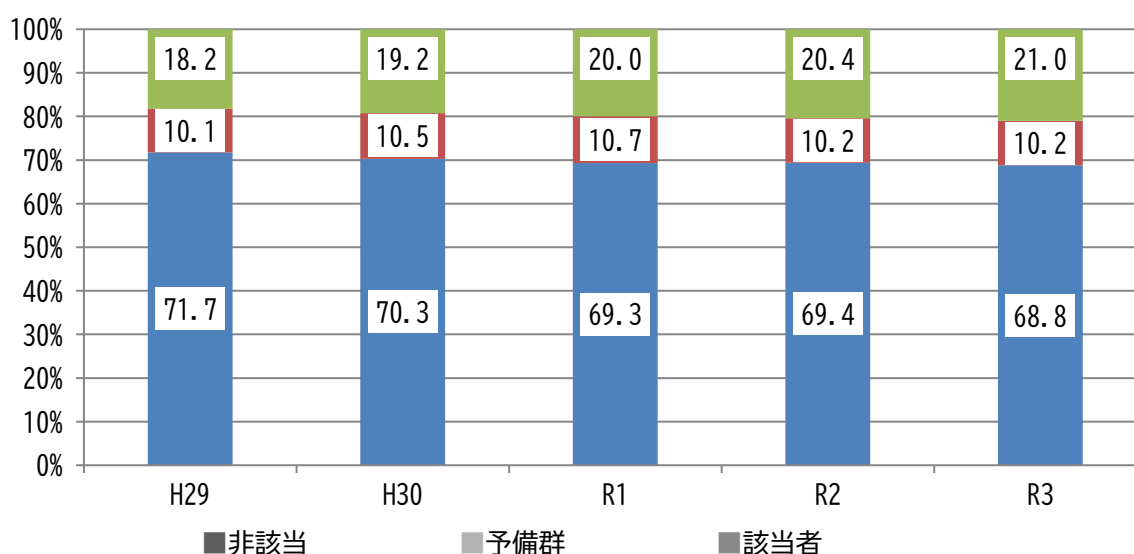


○中性脂肪 300mg/dl 以上の割合



(益田市国民健康保険特定健康診査結果)

○メタボリックシンドローム判定



- ※1 生活習慣病とは、食事や運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関与し、それらが発症の要因となる疾患の総称です。日本人の死因の上位を占める、がんや心臓病、脳卒中は、生活習慣病に含まれます。
- ※2 特定健康診査とは、2008年4月より40～74歳の保険加入者を対象として、全国の市町村で導入された健康診断のことです。糖尿病や高脂血症などの生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目し、この該当者及び予備群を減少させるための保健指導を必要とする者を、的確に抽出するために行うものです。また、2018年4月より歯科口腔の保健指導や歯科医院への受診勧奨の端緒となるよう、特定健康診査の標準的な質問票に咀嚼に関する項目が追加されました。
- ※3 高血圧とは診察室での収縮期血圧（最大血圧）が140mmHg以上、または拡張期血圧（最小血圧）が90mmHg以上の場合を高血圧と診断します。
- ※4 HbA1c（ヘモグロビン A1c）とは過去2か月程度の血液中の糖分の状態を評価する指標です。血糖値（血液中に含まれるブドウ糖の濃度）は血液検査をしたその時の血液中の糖分の状態しか評価できないのに対して、HbA1cは血液検査をする2か月程度前からの血糖の状態が評価できます。
- ※5 メタボリックシンドロームとは、内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい状態を指します。
- ①腹囲が基準以上（男性 85 センチメートル、女性 90 センチメートル）
 - ②血圧（収縮期血圧 130mmHg 以上かつ／または拡張期血圧 85mmHg 以上）、
血糖（空腹時血糖値 110mg/dl 以上）、
脂質の検査値（中性脂肪 150mg/dl 以上かつ／または HDL コレステロール 40mg/dl 未満）
が規定値以上
- ①に該当し②の危険因子が1つの場合をメタボリックシンドローム予備群といい、①に該当し②の危険因子が2つ以上の場合をメタボリックシンドローム該当者といいます。

(3) 食育について

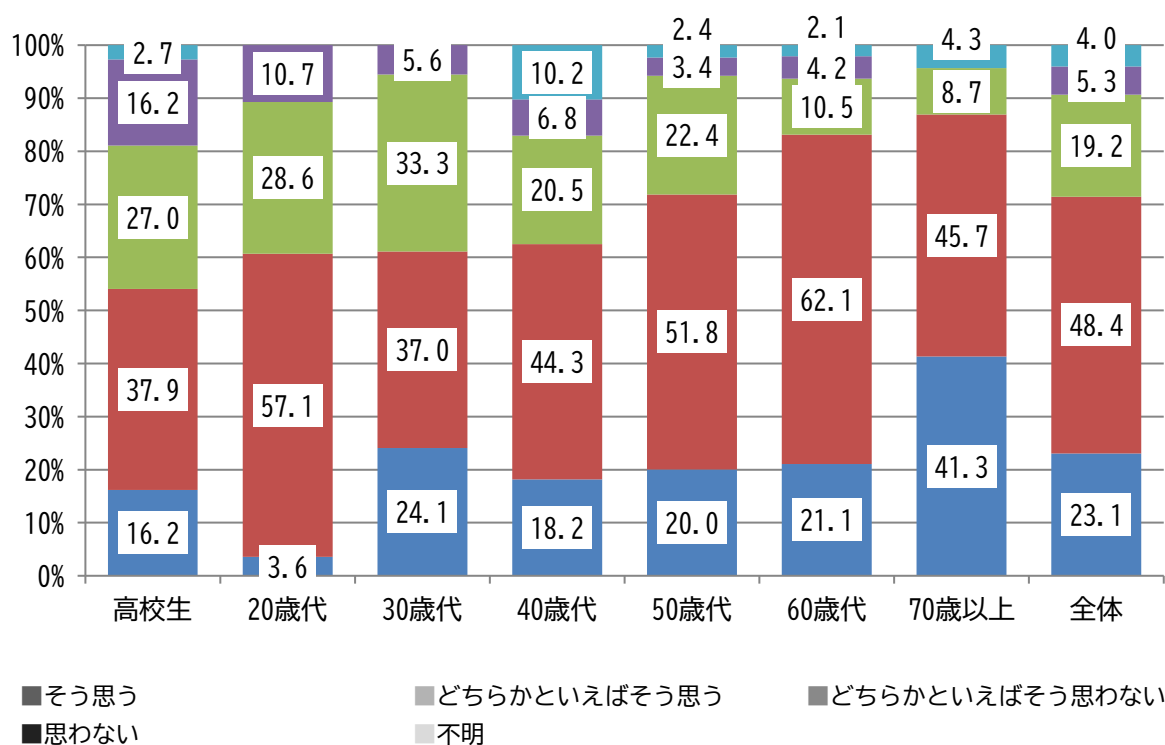
「食育」という言葉を知っている人の割合は意味を知らない人の割合も含めると91%になります。しかしながら、「食育」という言葉の意味を知っている人のうち、食育の実践をしていると思う人の割合及びどちらかといえば知っていると思う人の割合は、71.5%になっています。食育に関心がある人及びどちらかといえば関心があると答えた人の割合は、71.2%です。

言葉の認知度は高いですが、実践している割合や関心のある割合は認知度と比較すると低くなっています。食育を実践している人の割合は50歳代以上で、関心のある人の割合は30歳代以上で高くなっています。

○食育という言葉を知っている人の割合

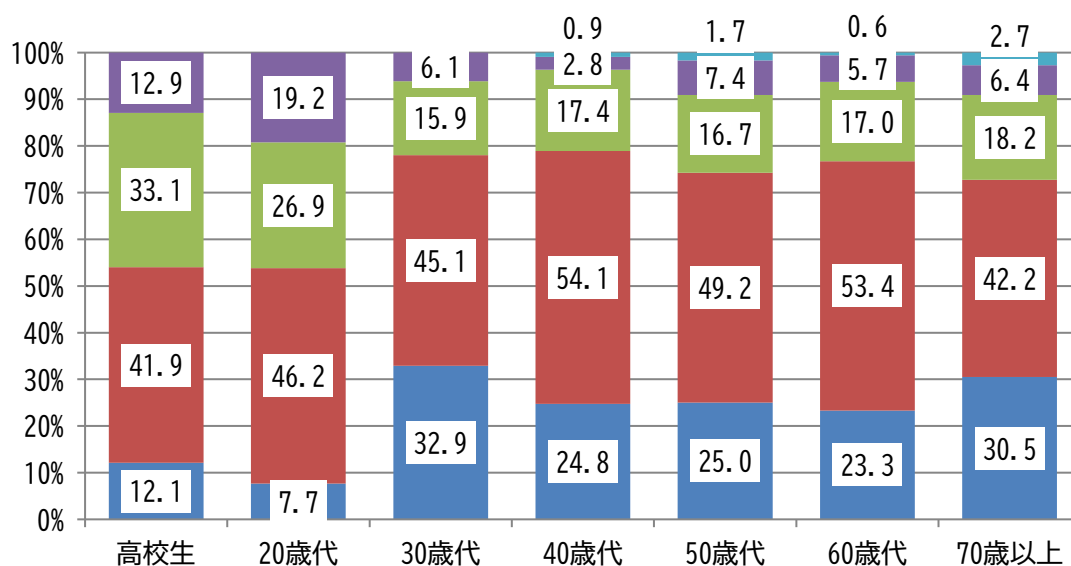


○食育という言葉の意味を知っている人のうち、食育を実践していると思う人の割合



(益田市食育推進に関するアンケート)

○食育に関心のある人の割合



(益田市食育推進に関するアンケート)

(4) 食生活、生活習慣について

【朝食の欠食、バランスの良い食事】

幼児の朝食の摂取状況は年度により変動はあるものの、大きく変化はしていません。

朝食をきちんと食べているかという設問にまったくあてはまらないと答えた人の割合は、小学5年生では2.9%、中学2年生では2.0%です。

また、20～30歳代では他の年代に比べると朝食を欠食することがある人の割合が高くなっていますが、改善傾向にあります。また、主食・主菜・副菜のそろった食事をとれていない人の割合も高くなっています。

○朝食を欠食する・欠食することがある幼児の割合

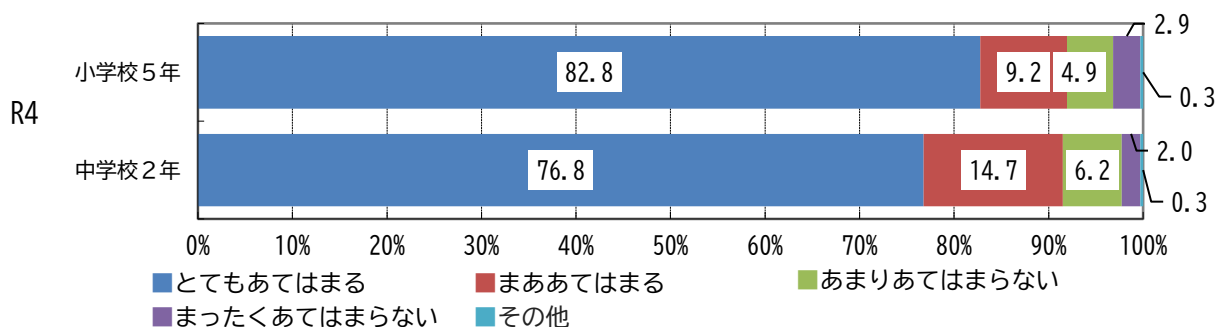
「欠食することがありますか」という質問に「あり 朝」と答えた割合
 選択肢：「なし」「あり」（ありの場合、朝・昼・夜から選択）

	平成24年度	平成29年度	令和4年度
1歳6か月児	1.4%	2.8%	2.3%
3歳児	3.4%	4.6%	3.4%

（益田市乳幼児健診アンケート）

○朝食の喫食状況

（設問：朝食をきちんと食べていますか）



（R4 島根県学力調査 生活・学習意識調査）

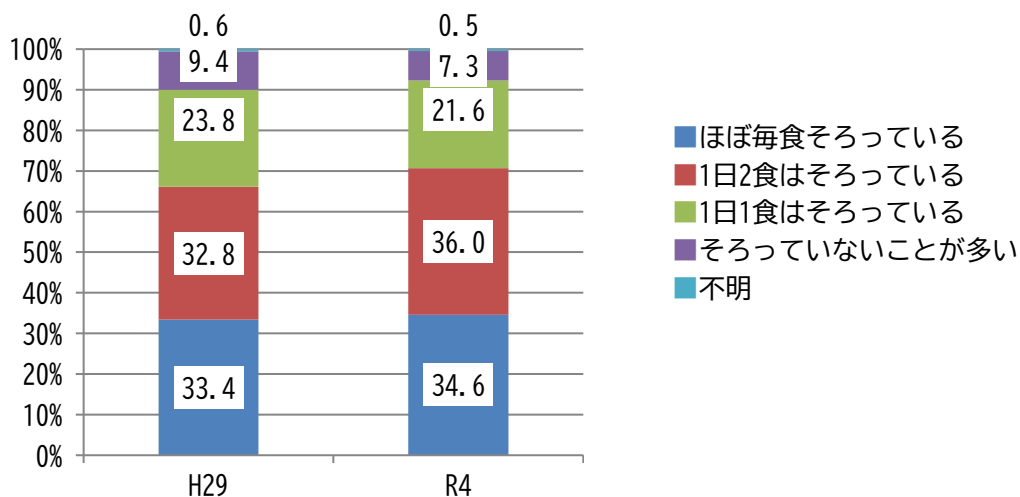
○毎日朝食を食べている成人の割合

「毎日朝食を食べていますか」という質問に「はい」と答えた人の割合
 選択肢：「はい」「いいえ」

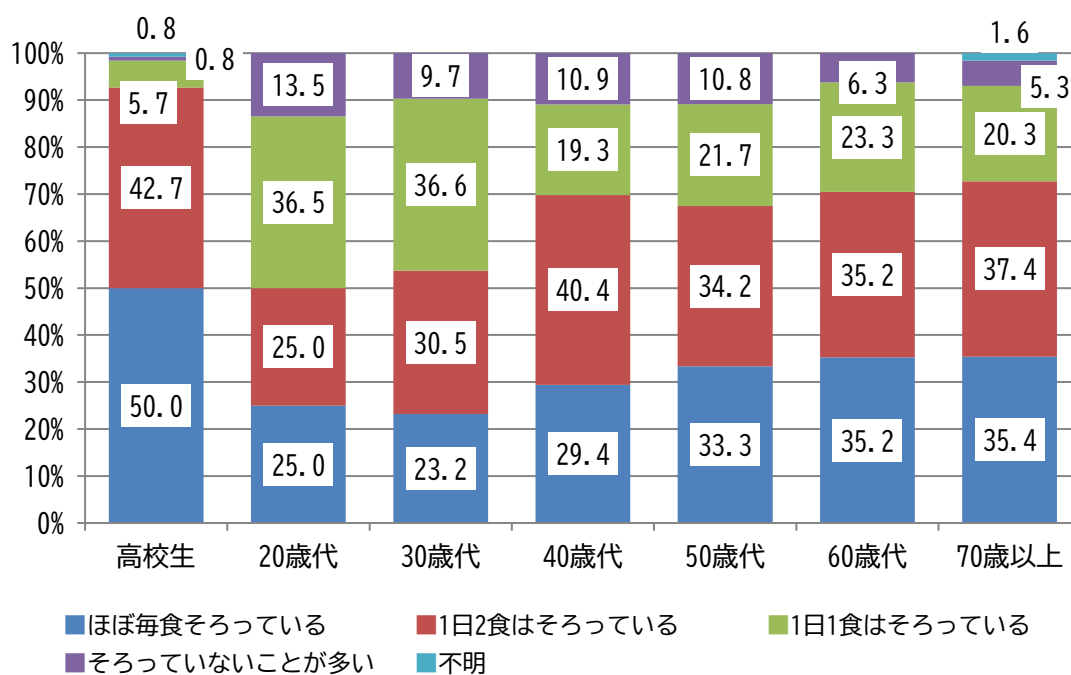
	平成21年度	平成27年度	令和2年度
全体	84.7%	86.8%	88.9%
20、30代男性	67.0%	58.2%	75.0%
20、30代女性	73.0%	76.9%	81.3%

（健康ますだ市21「健康づくりに関するアンケート」）

○主食・主菜・副菜のそろった食事をとっている人の割合



（益田市食育推進に関するアンケート）



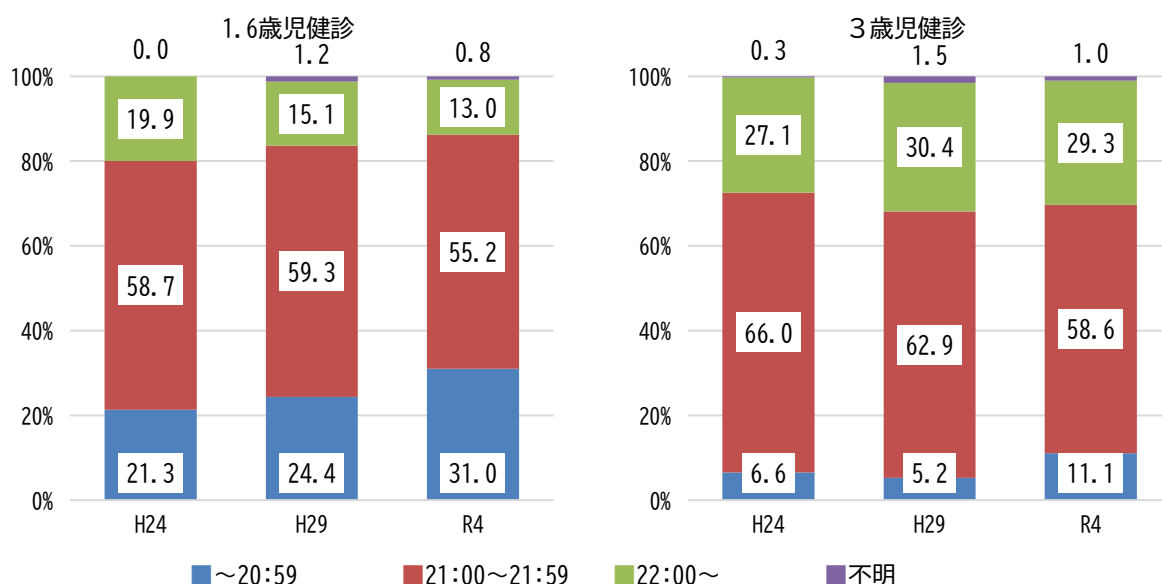
(益田市食育推進に関するアンケート)

【生活リズム】

1歳6か月児で13%、3歳児で29.3%の子どもが午後10時以降に就寝しています。

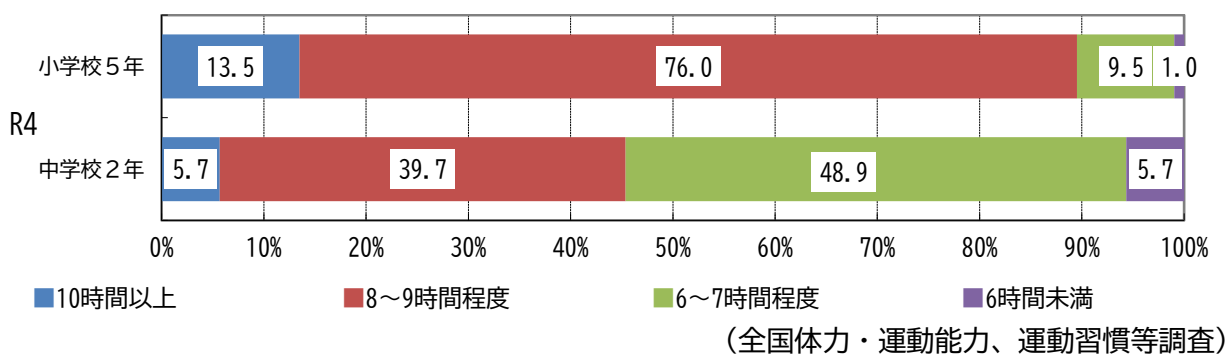
1日の睡眠時間が8時間以上の人の割合が小学校5年生で89.5%、中学校2年生では45.4%になっています。

○就寝時刻



(益田市乳幼児健診アンケート)

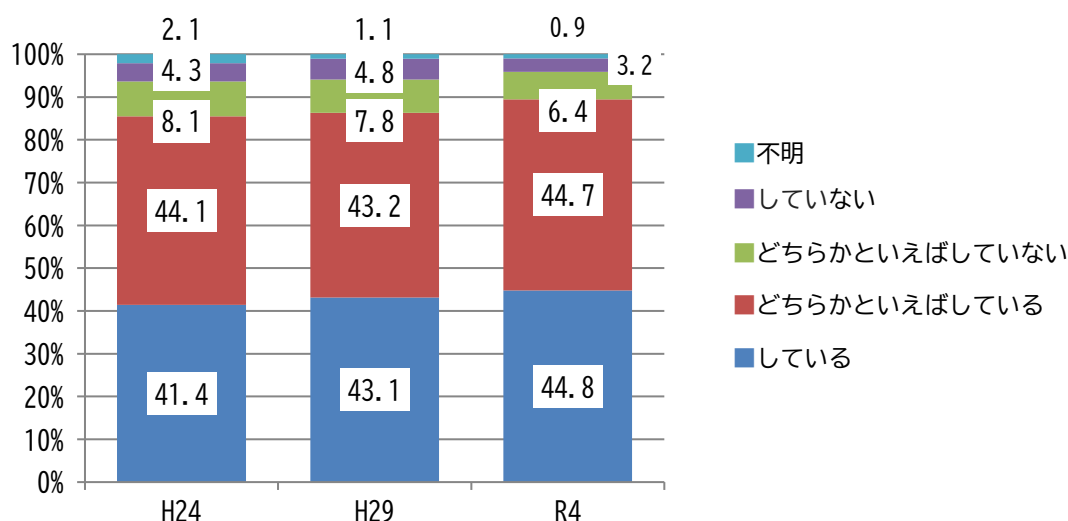
○1日の睡眠時間



【食と環境について】

食べ残しを減らしたり作りすぎないようにしている人の割合が 44.8%であり、どちらかというとしている人も合わせた割合は 89.5%になっています。

○食べ残しを減らしたり、調理をするとき作りすぎないようにしている人の割合



(益田市食育推進に関するアンケート)

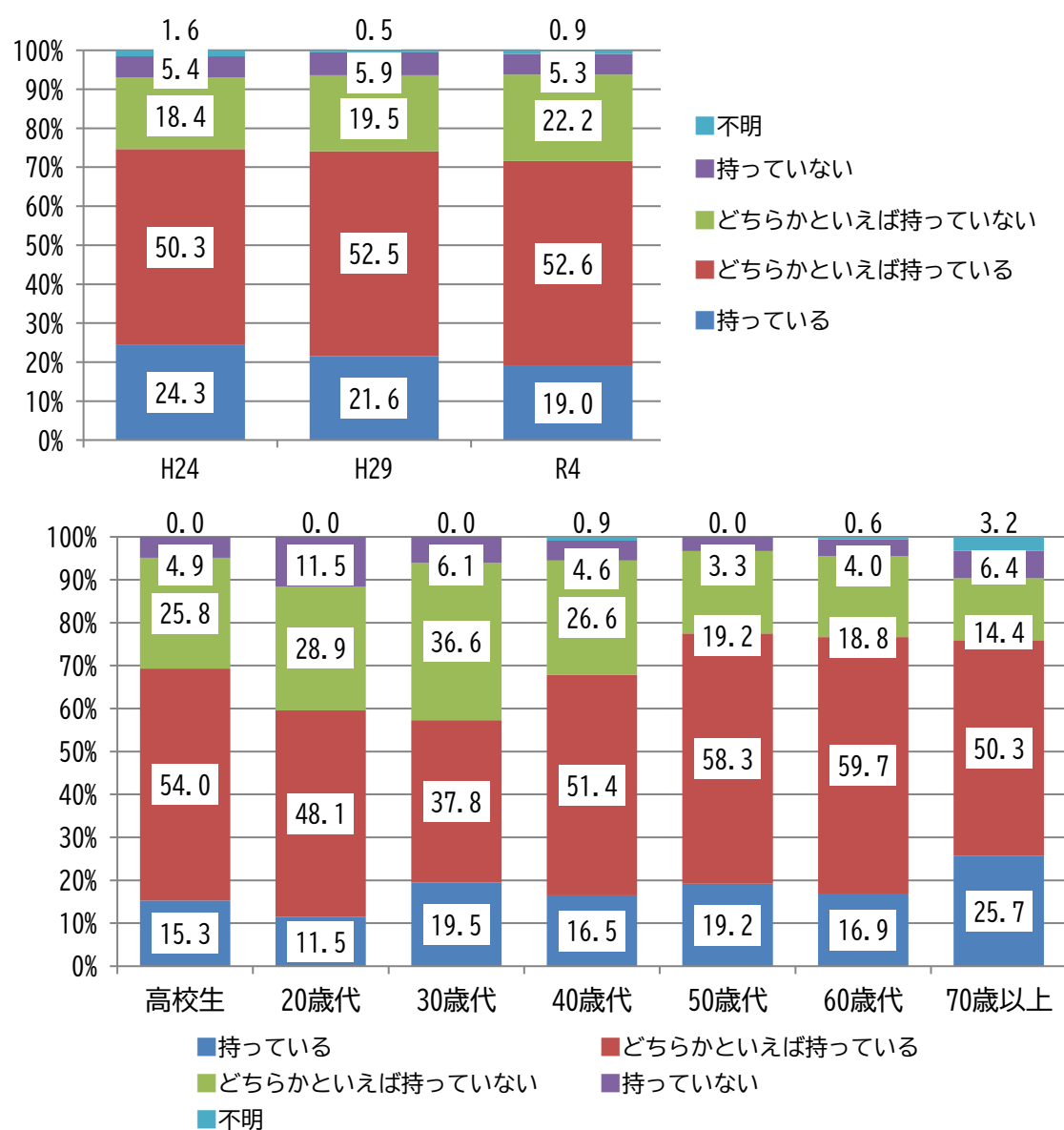
【食の安全について】

食品の安全に関する知識*を持っている人の割合が 19.0%であり、どちらかというとしている人も合わせた割合は 71.6%になっています。

また、食の安全に関する知識については 50 歳代以上では持っている人の割合が多くなっていますが、20 歳代、30 歳代の若い世代では持っていない人の割合が多くなっています。

※食の安全に関する知識とは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだら良いかやどのような調理が必要かの知識のことです。

○「食品の安全に関する知識」を持っていると思う人の割合



(益田市食育推進に関するアンケート)

(5) 食とコミュニケーションについて

【共食※の機会について】

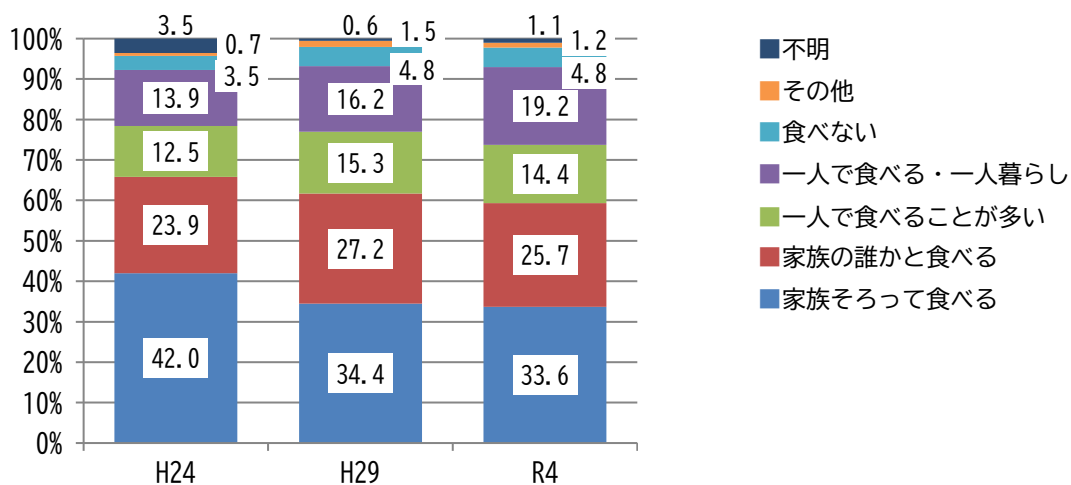
家族と食事をする人の割合は朝食が 59.3%、夕食が 79.0%です。そのうち、夕食については家族そろって食べる人の割合は 59.2%です。

※ 共食（きょうしょく）とは家族、友人、親戚等、誰かと一緒に食事をする事です。

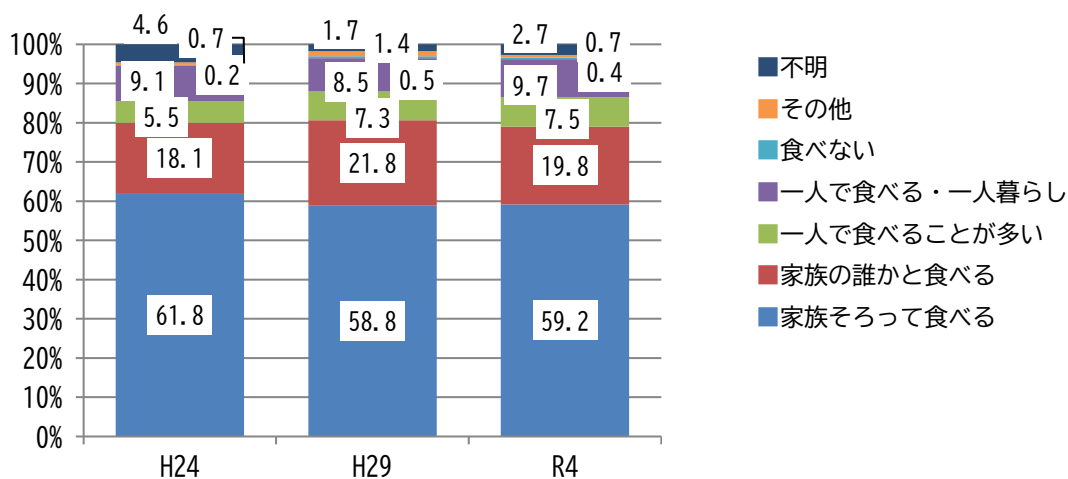
(対義語：孤食)

○家族と食事をとる人の割合

①朝食について



②夕食について

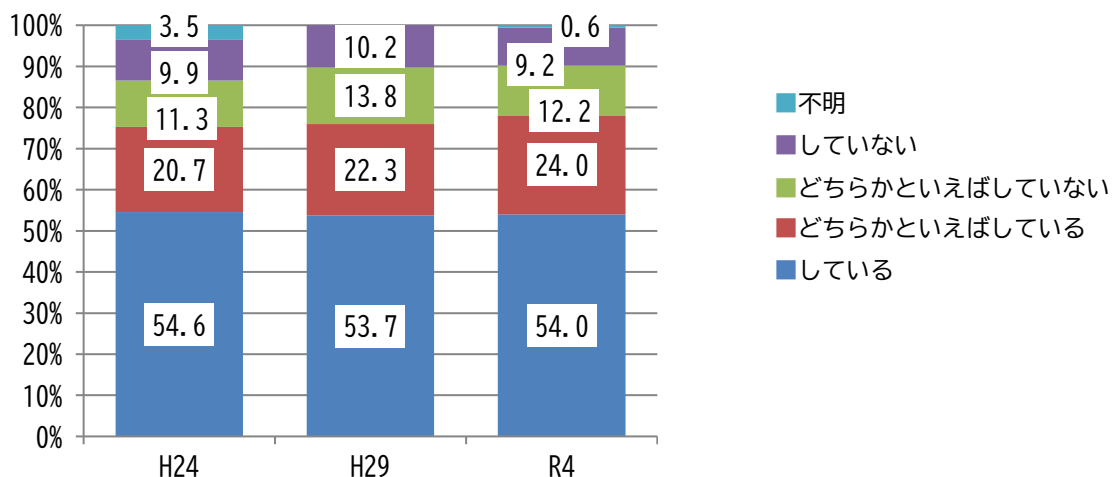


(益田市食育推進に関するアンケート)

【食事の前後のあいさつについて】

食事の際のあいさつをしている人の割合は 54.0%であり、どちらかといえばしている人も合わせた割合は 78.0%です。

○食事の前後に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしている人の割合



(益田市食育推進に関するアンケート)

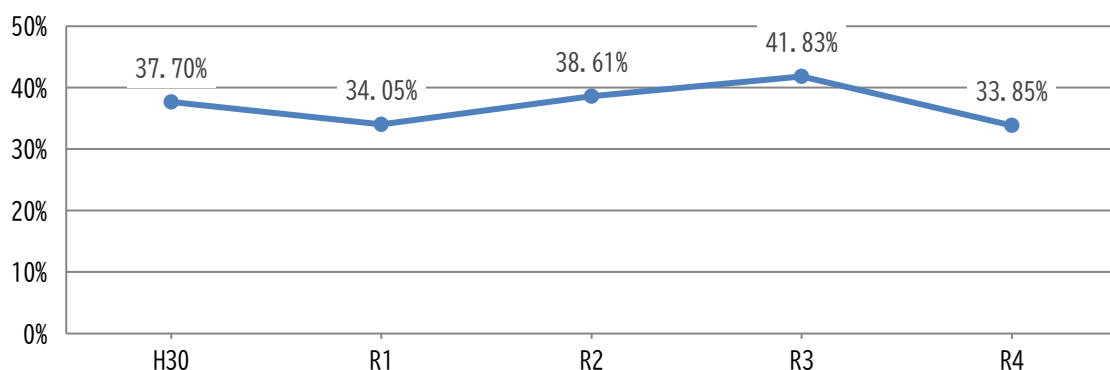
(6) 地産地消について

【学校給食】

学校給食では地産地消を推進しています。

県やJA（農業協同組合）、農事組合法人、民間業者等の協力により始めた冷凍カットトマトやタケノコの水煮、切干大根等の一次加工品が、現在は安定供給されています。この他にも、最近では、島根県立益田翔陽高等学校が作っている「美味しまね認証制度」を取得した“翔陽米”やじゃがいもを給食に使用しています。

学校給食での主食を除いた益田産の農産物の使用割合は年度により農産物の収穫量に差がありますが、平成30年度から令和4年度までの5年間平均では37.21%になっています。



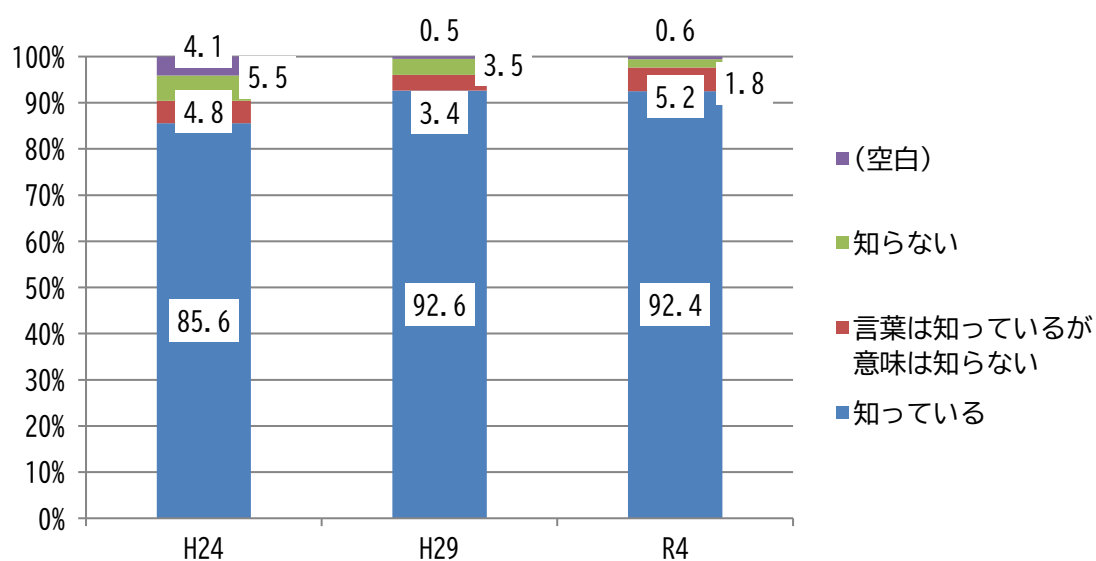
(学校給食食材（農産物関係）使用実績状況調査・・・主食を除いた重量ベース(%))

【地産地消についての意識】

地産地消の言葉を知っている人の割合は97.6%です。しかしながら、購入時に地元産を優先する人の割合は35.6%、また、産地にこだわらない人の割合が26.5%です。

地元産を優先する割合は横ばいです。産地にこだわらない割合は増加傾向にあります。

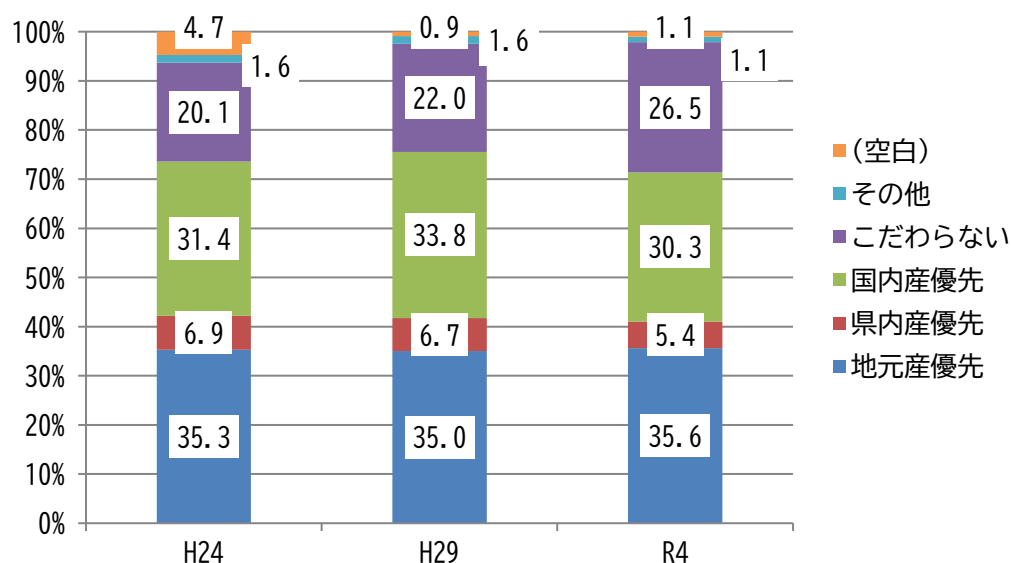
○地産地消という言葉を知っている人の割合



(益田市食育推進に関するアンケート)

○農林水産物を購入する際に「産地」へこだわりのある人の割合

（設問：あなたは農林水産物を購入する際「産地」についてこだわりますか？）



（益田市食育推進に関するアンケート）

（７） 農林水産業について

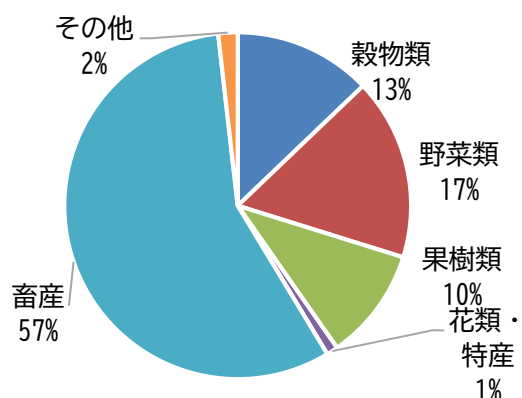
【農業について】

農業を取り巻く環境は、農業生産に必要な施設等の老朽化や農業者の高齢化等による後継者不足など、厳しい状況にあります。一方で、食の安心・安全に対する市民の関心は高まっており、農村が果たす多面的な役割の重要性についても見つめなおされているところです。

本市の農業は、水稻・施設園芸・畜産等の単作をはじめ、野菜などを取り入れた複合経営を主として形成されています。出荷額が多いのは水稻、野菜、畜産で、出荷額全体の８割以上を占めています。水稻では、特別栽培米をはじめとする、特色ある米作りに取り組んでいます。また園芸品目では、主にメロン、ぶどう、トマト、西条柿、ゆず、いちご、わさびなどが栽培されています。畜産は全体の約６割を占めていて、大型畜産経営体の規模拡大などにより飼養頭数が増加しています。県内をはじめ大阪、東京等に出荷される中、市内スーパーや直売所等では、地産地消コーナーが設置され、地元農産物の販売が行われています。

地産地消を通して、幅広い世代の消費者と、生産者がつながり、互いに理解を深めることで、食の安全性の確保や食文化への理解、地域経済の循環など、地域の活性化への寄与が期待されることから、学校給食を含めた様々な場面で、地元産品が地域内を流通するしくみづくりが求められています。

○益田市の農業出荷額の構成



(ＪＡしまね西いわみ地区本部取扱額(R4年度 益田市分))

品名	出荷額 (円)
穀物類	554,574,016
野菜類	731,313,936
果樹類	452,290,170
花類・特産	45,828,650
畜産	2,452,216,979
その他	77,849,093
計	4,314,072,844

参考：「ますだ食と農の基本計画」との連携

益田市食育推進計画と連携を取りながら施策展開される「ますだ食と農の基本計画」では、「ますだ食と農の市民条例」の基本理念にもある「安心・安全な食の安定供給」をはじめとし、地場農産物の消費向上や、食と農に関する理解の増進が掲げられており、消費者と生産者が、互いに理解を深めるための取組を進めることとしています。両計画がより一層連携し、本市の食育を推進していくこととしています。

【漁業について】

益田市の漁業は、定置網及び採介藻※等の沿岸漁業が中心となっています。令和4年の海面漁業の年間漁獲量は355トン、主な魚種はブリ・イワシ・アジ・イカ・ヒラメ・タイ等です。放流や稚魚の育成事業を支援し、「つくり育てる漁業」に取り組んでいます。しかし、漁業従事者についても高齢化が進んでおり、新たな担い手の確保などが課題となっています。

高津川と益田川の河口の間の中須・大塚海岸で獲れる大型のはまぐりは、「鴨島はまぐり」の愛称で親しまれ、清流「高津川」の産物として、アユとともに注目されています。

栄養豊富な水を生む森の再生や、河川、海洋の水質向上などを目的に漁業関係者と市内の子ども達による植林も行われています。

※ 採介藻(さいかいそう) 漁業とは、アワビ・サザエ・ナマコ・ウニ・ヒジキ・天草・ワカメ等を潜水(素もぐり)や船上から箱メガネで覗きながらほこなどを使って採捕する漁業です。

(8) 災害対策について

近年、台風や大雨による災害が大規模化、激甚化する傾向にあります。また、南海トラフ沖を震源とする地震の発生も危惧されています。※

このような大規模な災害が起きると、電気や水道、物資の流通などライフラインの停止が起こります。

益田市では災害に備え益田市地域防災計画に基づいて食料備蓄を行っており、非常食を 9,000 食備蓄しています。また、食料備蓄の啓発として市民へハザードマップや益田市公式ウェブサイトにて情報提供を行い、自治会や自主防災組織への学習会を行っています。

※令和 5 年度版防災白書より一部改変

(9) 困難を抱える方への支援について

益田市社会福祉協議会では食べるものがなく困っている方を対象に緊急の支援として、食料品の提供を行うフードバンクを実施しています。フードバンクは平成 28 年 11 月から始まっており、令和 5 年 3 月末時点で 838 件の寄付（食品数 12,063 品）、800 回の提供（食品数 11,219 品）を行っています。フードバンクを通じ、子ども食堂へ米の提供を行っています。

また、自分で料理をすることが難しく生活状況や健康状態を確認する必要がある独居高齢者または高齢者のみの世帯の方を対象に配食サービスを実施しています。

(10) 食育に関する情報の入手方法について

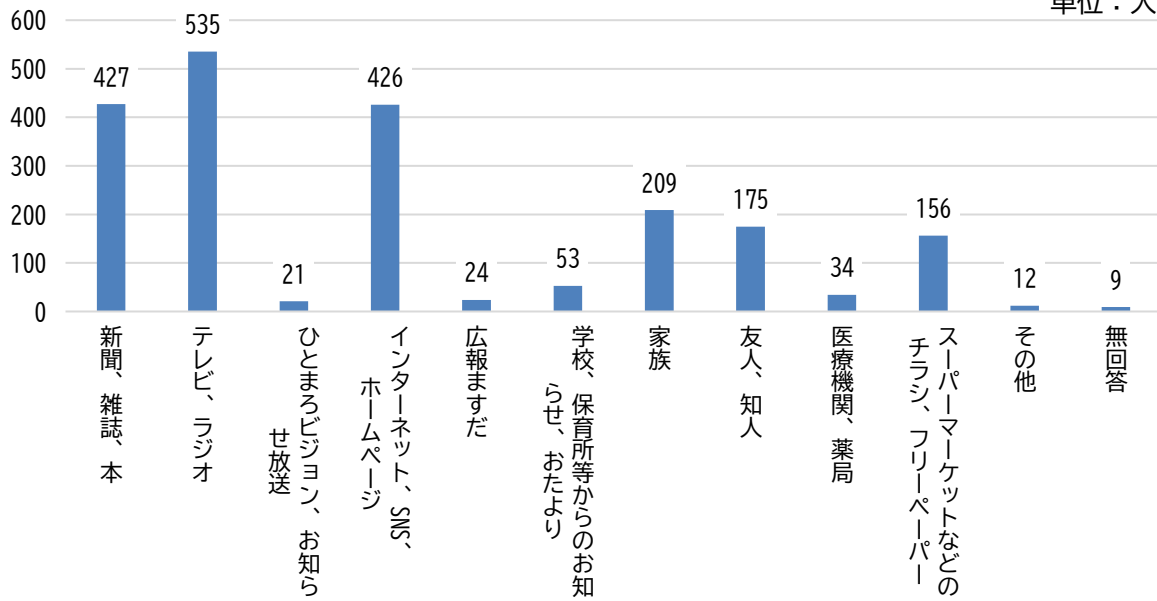
食育に関する情報については、テレビ、ラジオから入手する人の割合が多く、次いで新聞、雑誌等やインターネット等となっています。

年代別ではテレビ、ラジオは全年代を通じて多くなっていますが、新聞や雑誌等からは 30 歳代以上、インターネット等からは 60 歳代以下で多くなっています。また、高校生、20 歳代では家族から、70 歳以上で友人、知人からが多くなっています。

年代の特徴に応じた手法で情報提供を行っていく必要があります。

(設問：あなたは食に関する情報をどこから入手していますか。(3 つまで選択))

単位：人



年代別の回答割合

(各年代で選択した割合が多かった上位3つまでの項目を網掛けで表示)

	高校生	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
新聞、雑誌、本	28.2%	25.0%	34.1%	40.4%	56.7%	65.3%	65.8%
テレビ、ラジオ	56.5%	48.1%	52.4%	50.5%	53.3%	75.6%	76.5%
ひとまるビジョン、お知らせ放送	4.0%	1.9%	1.2%	3.7%	0.8%	2.3%	2.7%
インターネット、SNS、ホームページ	61.3%	69.2%	82.9%	66.1%	65.8%	44.9%	8.6%
広報ますだ	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	4.0%	5.9%
学校、保育所等からののお知らせ、おたより	12.1%	11.5%	11.0%	11.0%	5.8%	1.1%	1.1%
家族	53.2%	40.4%	29.3%	13.8%	14.2%	15.3%	20.9%
友人、知人	5.6%	11.5%	15.9%	21.1%	22.5%	23.3%	30.5%
医療機関、薬局	0.8%	0.0%	4.9%	2.8%	5.0%	6.3%	4.8%
スーパーマーケットなどのチラシ、フリーペーパー	8.9%	19.2%	12.2%	19.3%	18.3%	16.5%	28.3%
その他	1.6%	0.0%	1.2%	1.8%	0.8%	0.6%	2.7%
無回答	0.8%	0.0%	1.2%	0.9%	0.0%	0.6%	2.7%

(令和4年度益田市食育推進に関するアンケート)

3. これまでの取組

(1) 多メディアを活用した食育の推進

第3次益田市食育推進計画の策定にあたり、市民アンケートやまちづくりラウンドテーブル※、食育推進会議等を実施し、現状や課題、成果等について検討しました。その中で、市内では様々な団体が食育活動を行っているが、活動の情報発信や情報共有が不十分であり、特に子育て世代を中心とした若い世代への情報発信が不足していることが課題としてあがりました。その対策として、多くの方が利用している様々なメディアを活用した情報発信に取り組むこととしました。

これまでの広報ますだによる周知に加え、令和元年度から、幅広い年代層で利用され認知度の高い「クックパッド」に益田市の公式キッチンを開設しました。公式キッチンでは益田産の食材を使ったレシピや益田に伝わる料理のレシピを市内で活動をしている個人・団体から提供してもらい掲載しています。

クックパッドでは市内の関係団体と連携し、島根県立益田高等学校のスーパーサイエンスハイスクール事業で作成した美都のゆずとアイルランド料理のレシピや市内の料理人考案のレシピ、健康ますだ市 21 推進協議会で募集した地産地消をテーマにした入選レシピなどの掲載をしました。

また、農林水産課で Facebook を開設し、農林水産に関するイベントや農業体験の様子等を発信しています。

※まちづくりラウンドテーブルとは、地域住民が豊かに暮らし続けるとともに、未来を担う子どもたちが大人になっても豊かに暮らし続けていけるような地域づくりを実現するため、市民と行政がともに考え行動するパートナーシップを確立し各地の地域課題の解決を図るための意見交換の場、並びに学びあいの場のことです。



田植え体験

(2) 目標の達成状況と課題

平成 30 年度に策定した第 3 次計画では、食育の取組の進捗状況を客観的に把握するためにそれぞれの目標について評価指標を設定しています。これらの指標の達成度は以下のとおりです。

〈達成度の判定〉 ○：目標値を達成したもの
 ↑：目標値は達成しなかったが、改善傾向にあるもの
 →：計画策定時と大きく変わらないもの
 ↓：悪化傾向のもの

健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」の項目については、5%以上の増減について改善または悪化傾向としています。また、健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」以外の項目については、統計的に有意差のあるものについて改善または悪化傾向としています。

ま まごころに感謝し、食を通して豊かな心を育てよう

目標 1 食を大切にし、感謝の気持ちを持とう

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
食べ残しを減らしたり、調理をするとき作り過ぎないようにしている人の割合	90%	(H29) 86.3%	(R4) 89.4%	↑	食育推進に関するアンケート

目標 2 家族や仲間と楽しく、おいしく食べよう

	目標値		ベースライン	直近値	達成度	備考
家族で食事をする人の割合			(H29)	(R4)		食育推進に関するアンケート
	朝食	70%	61.6%	59.3%	→	
	夕食	80%	80.6%	79.0%	→	

○ これまでの取組

保育所、認定こども園、幼稚園、小学校等では芋掘りや稲作体験などの体験活動を通して、食の大切さや収穫の喜び、感謝の気持ちを育む活動が行われています。

○ 課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方や友人との会食の機会が減ったり、黙食が推奨されたことから食を通じたコミュニケーションの機会が減ったとの意見が食育に関するアンケートの自由記載欄に見られました。今後、会食の機会が以前と同様に戻ってくる中で、社会との繋がりも再び増やし「誰かとおいしく、楽しく食べる」場を作ることが必要です。

家族で食事をする人の割合は微減傾向にあります。一人暮らし世帯が増え、家族で食事をとることが難しくなっています。



好き嫌いを減らし、3食食べて丈夫な身体を作ろう

目標3 心身ともに健康で豊かな生活を送ろう

1) 栄養バランスのよい食事をとる

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
意識してたんぱく質の豊富な食品を食べるようにしている人の割合	80%	(H27) 73.0%	(R2) 79.1%	↑	健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」
意識してビタミン、ミネラルの豊富な食品を食べるようにしている人の割合	80%	(H27) 74.3%	(R2) 78.7%	→	
意識してカルシウムの豊富な食品を食べるようにしている人の割合	80%	(H27) 68.6%	(R2) 72.4%	→	
1日2食以上主食、主菜、副菜のそろった食事をとっている人の割合	70%	(H29) 66.1%	(R4) 70.7%	○	食育推進に関するアンケート

2) 子どもの時から規則正しい生活リズムを心がけ、3食しっかり食べる

	目標値		ベースライン	直近値	達成度	備考
朝食欠食者の割合	1.6歳児 3歳児	なくす (0%)	(H29)	(R4)		健診アンケート
			2.8%	2.3%	→	
	小5 中2	なくす (0%)	(H29)	(R4)		島根県学力調査
			0.7%	2.9%	→	
	20,30歳代		(H27)	(R2)		健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」
			58.2%	75.0%	○	
毎日朝食を食べている人の割合	男性	70%	76.9%	81.3%	○	
	女性	80%				

3) 生涯を通じて自分の歯で食べる

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
仕上げ磨きをする親の割合(3歳児)	18%	(H29) 16.9%	(R4) 15.8%	→	健診アンケート
定期的に歯科医院へ行っている人の割合	増やす	(H27) 27.3%	(R2) 38.2%	○	健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」

目標4 食への意識・知識を高め、実践力を身につけよう

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
食育に関心のある人の割合	80%	(H29) 73.4%	(R4) 71.2%	→	食育推進に関するアンケート

○ これまでの取組

健康づくりの会や公民館、益田市食生活改善推進協議会、学校など様々な団体が連携して健康づくり活動を実施しています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止したり、規模を縮小して実施せざるを得ない状況が続きました。

就学時健診の場を活用し、保護者に対し「早寝早起き朝ごはん運動」や「メディアコントロール※」の啓発を行っています。

離乳食教室、各種健康教室、健康相談、介護予防教室等を通じて各世代に応じた適切な生活習慣の実践を目指した取組を行っています。

○ 課題

乳幼児健診のアンケートから朝食欠食や就寝時間の遅い子どもがみられ、子どもの頃から望ましい生活習慣をどのように定着させていくか課題があります。

食育に関するアンケートや健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」では 20～30 歳代の若い世代を中心に朝食の欠食やバランスの良い食事がとれていない状況が見られます。また、この世代は食や健康に関する事業への参加が少ない傾向にあり、若い世代への働きかけが課題になっています。

※ メディアコントロールとは、メディア（テレビ、スマホ、タブレット等）に接する時間やメディアに接する内容等を保護者がしっかり把握し制限・制御（コントロール）することです。



だ 代々受け継がれてきた食文化を大切にしよう

目標 5 地元に伝わる食文化を学び、継承しよう

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
行事や季節を意識した食事をとる人の割合	90%	(H29) 86.1%	(R4) 84.1%	→	食育推進に関するアンケート

○ これまでの取組

地域、保育所、認定こども園、幼稚園、学校等で餅つきや豆腐作りなど伝統食や行事食づくりなどの体験活動が行われています。

○ 課題

食育推進に関するアンケートでは 20 歳代を中心に行事食や旬の食材が分からないと答えている人の割合が多くなっており、行事食や伝統料理を次の世代にどう伝えていくべきかが課題です。



し 食の安全について学び、自然の恵みを生かし、選び食べよう

目標 6 食を生産する農林水産業の大切さ、必要性を知ろう

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
農業体験を取り入れている保育所、認定こども園、幼稚園、小学校の割合	100%	(H29) 100%	(R4) 100%	○	実績

目標 7 地元産のものをもっと食べよう

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
学校給食食材（主食を除く 主な農産物関係）益田産使用割合（重量ベース平均）	60%	(H29) 39.29%	(R4) 33.85%	↓	実績
農林水産物を購入する際に「地元産」を優先する人の割合	40%	(H29) 35.0%	(R4) 35.6%	→	食育推進に関するアンケート

目標 8 安心・安全な食を選び食べよう

	目標値	ベースライン	直近値	達成度	備考
食品の安全性について基礎的な知識を持っている人の割合	75%	(H29) 74.1%	(R4) 71.6%	→	食育推進に関するアンケート

○ これまでの取組

農林漁業体験の場を設け、収穫体験や鮎のつかみ取り、選果場の見学など様々な活動を行っています。

市内のスーパーの地産地消コーナーや産直市など地元の農産物の直売施設は増えています。

学校給食では、主食の米は 100%益田産のものを使用しています。野菜も益田産の使用に努めており、学校給食用の野菜を栽培している農家への補助も行っています。益田産野菜の通年利用のため、冷凍カットトマトや切干大根、干ししいたけ、たけのこ水煮、ゆず酢を使用しています。

○ 課題

学校給食では主食を除く主な農産物関係の値が、令和 4 年度単年でみるとベースライン値よりも低い値ですが、天候等の影響で収穫量に差が生じるため平均値で経過をみる必要があります。

「地産地消」という言葉の認知度は高いですが、地元の農産物を優先する人の割合を上げていく必要があります。

●備考

各データの対象者数について

令和 4 年度 1 歳 6 か月児健診 258 人

3 歳児健診 291 人

令和 4 年度 小学 5 年生 348 人

中学 2 年生 353 人

令和 2 年度健康ますだ市 21「健康づくりに関するアンケート」

20 歳以上 1,730 人

令和 4 年度益田市食育推進に関するアンケート

高校生と 20 歳以上 853 人